

地域文化のレスキューを振り返る

— 小々汐 尾形家を中心に —



気仙沼市教育委員会では、東日本大震災後の被災レスキュー事業等で救出・収集された資料群の整理作業を10年以上実施してきました。その中には、気仙沼の暮らしを知ることができる資料がたくさんあります。

今回は、小々汐の旧家「尾形家」を中心とした資料の展示をとおして、気仙沼の漁業文化や年中行事を紹介します。また、期間中には、文化財レスキューから資料整理までご尽力いただいた国立歴史民俗博物館・川村清志准教授による講演会も開催いたします。

今年9月の能登半島豪雨が記憶に新しいですが、災害は決して他人事ではありません。「文化財をレスキューすることは地域の文化を次代に繋ぐこと。」今回の展示をとおしてその意義をお伝えできれば幸いです。

特別展示

＜開催期間＞

令和6年11月1日(金)～11月17日(日)

[休館日:5日(火)・11日(月)・12日(火)]

＜時間＞

午前9時30分～午後5時(17日は午後4時まで)

＜場所＞

リアス・アーク美術館エントランスホール

(気仙沼市赤岩牧沢138-5)



講演会

＜開催日＞

令和6年11月2日(土)

＜時間＞

午後1時30分～午後3時30分

(開場・受付開始時間:午後1時)

＜場所＞

リアス・アーク美術館ハイビジョンギャラリー

＜講師＞

川村 清志 氏

(国立歴史民俗博物館准教授)



～資料所有者の尾形様及び国立歴史民俗博物館の皆様、そしてこれまで作業にご協力いただきました全ての皆様に感謝申し上げます～

■主催■ 気仙沼市教育委員会/「けせんぬま遺産」活用推進実行委員会

■問い合わせ先■ 気仙沼市教育委員会生涯学習課文化振興係

(TEL:0226-22-3442 E-Mail:kyosho@kesenuma.miyagi.jp)



【文化庁】令和6年度
地域文化財総合活用推進事業